

掛けるコミュニティセンター

～人と芸術と建築と～

掛け算によって様々な交わりを生む。
掛け合わされた交わりは、
地域をつくる循環となる。
人と芸術と建築の掛け算によって、
地域の可能性をソウゾウする。



1 計画地

川崎市多摩区登戸
・昼夜間人口比率が低く、夜間人口よりも昼間人口が少ない。県外に通勤、通学する人々が多く住むベッドタウンである。
・周辺には岡本太郎美術館や日本民衆館、ドラえもんミュージアム、伝統工芸館など様々な文化的施設が点在している。
・住宅街でありながら、付近に多摩川や生田緑地などが存在し、自然に恵まれている。



6 周辺環境



地域への開き方

- ・小学校や役所など、地域の人々に欠かすことができない施設が周辺に存在する。
- 地域の人々が気軽に立ち寄ることができる。
- ・駅、バスロータリーが付近に存在する。
- 周辺の文化施設を訪れた観光客など取り込み事が可能。
- ・付近には大型マンションが建設予定である。
- 多くの人が訪れることが期待できる。
- ・一軒家や集合住宅が並ぶ住宅街である。

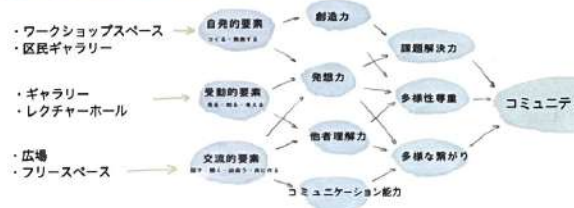
2 問題提起

高度経済成長期以降、都心に通勤する人々のベッドタウンとして郊外に住宅街が整備された。ベッドタウンの住民の多くは職場など外部に自身のコミュニティの主体を持つ。そのため、居住地のコミュニティに対する関心は低くなる傾向にあり、地域コミュニティが希薄になりやすい。
近年、リモートワークなどの登場によって都心に縛られない働き方が生まれている。「都心へのアクセスが良いこと」のみが地域の魅力となっていては地域は廃れてしまうのではないだろうか。今後はそのような地域においても地域コミュニティを形成し、人々の地域に対する愛着を生み出すことが重要であると考えた。そこで今回、そのような地域において掛け算によってコミュニティを構築するコミュニティセンターを提案する。

3 コンセプト

掛け算の「ソウゾウ」
地域の創発・未来の想像・コミュニティの創造
「建築×人×芸術」を主体とした、掛け算によってソウゾウする空間を提案する。多摩区の特長を踏まえ、人と建築に加え、芸術を掛け算の主体とした。これらの3つの要素に加え、人々の行為や空間の構成、地域の特性などの様々な要素を掛け合わせることで大きな効果を生み出すことを期待する。
多摩区に環境や文化的資源をふまえて、人々の地域コミュニティや、まちの可能性を創出する。また、訪れた人々によって掛け算が拡大し、地域が作られる空間の要素を取り入れる。

4 活動イメージ

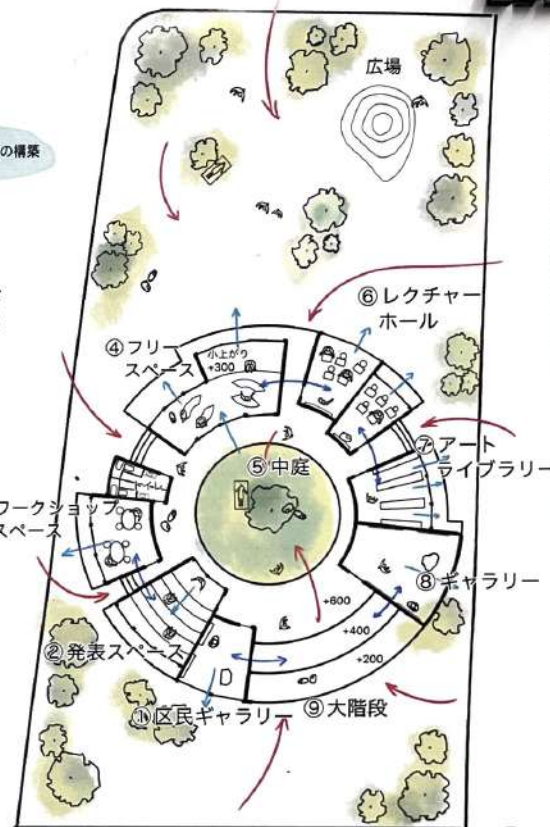
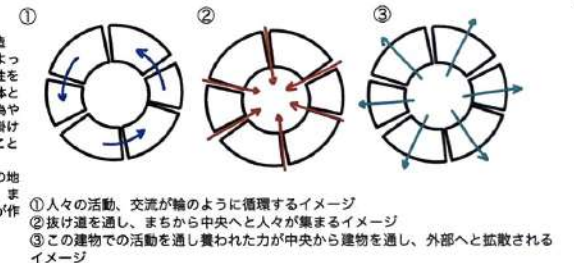


芸術活動をきっかけとして、コミュニティ構築の土台となる力を育てる。このコミュニティセンターでは「つくる・発表する」などの自発的要素、「見る・知る」などの受動的要素、「話す・出会う」などの交流の要素が空間(建築)によって存在し、上図の通り、それぞれの空間ごとに力を生み出す。それらの力によって、効果をもたらす。また、周辺の文化施設と連携して展示や講演会、イベントを行うことで、地域により密着した存在とする。

5 空間の成り立ち

平面イメージ

造形的アプローチにより、コミュニティセンターにおける活動や効果を象徴する空間を計画する。コミュニティを生み出す要素である「受動・主体・交流」の3つのエリアに分割し、建物全体として表現する。



7 空間ごとの様子

360度、放射状に配置された空間を切断、展開し、中庭からの視点の断面ドローイングを制作した。

